

松江城天守国宝指定 10 周年記念

特別展 慶長の城—松江城築城とその時代—

開催要項

関ヶ原合戦直後から日本列島全域で新たな築城が始まる。松江城も慶長の築城ラッシュの最中に建った。慶長 16 年（1611）に完成した松江城天守は現在に引き継がれ、平成 27 年（2015）7 月 8 日、国宝に指定された。本年は国宝指定 10 周年にあたり、それを記念して特別展を開催する。

松江城築城の頃はどのような時代だったのか。関ヶ原合戦で徳川家康が勝利したものの、大坂には豊臣秀頼がおり、戦争の火種が燻っていた。また、戦後処理として諸大名の大規模な所替えを行ったことで、移封を命じられた大名等は新たな領知を確立しなければならなかった。関ヶ原合戦を終えた日本列島は、緊張状態にあったのである。そこで各地で築城が始まる。慶長期の築城ラッシュは、城の普請と作事を飛躍的に発展させ、石垣、瓦、礎石建物で構成する近世城郭を全国に普及した。それは、山城の出現、織豊系城郭の出現に続く、日本城郭史上の画期に位置付けられよう。

慶長時代に出雲国の新たな支配者が誕生する。覇権を握った徳川氏への勲功により、堀尾氏が出雲隠岐両国を治める大名になった。出雲国に入った堀尾氏は、はじめ旧領主の居城であった月山富田城に入城したが、新たな政治・軍事の拠点築き、家臣とともに移転した。新たな城地に選んだのが松江である。水運を利用した領域経済の要地を押さえ、武士と商人、職人を集住させる平地を有する松江を選び、新たな城と城下町を築いた。松江城は、新領主の手により、まったく新たに築かれた“慶長の城”であった。現在も、慶長 16 年（1611）に完成した松江城天守が堀尾氏の偉業を伝えている。

“慶長の城”は松江城だけではない。また、新たに築いた城だけではない。旧来の拠点城郭をそのまま利用し、改修する場合もあった。江戸幕府が大名を動員し「天下普請」によって築いた城もあった。慶長期の城であり、改修によって建った広島藩福島氏の広島城、米子藩中村氏の米子城、天下普請によって築城した彦根藩井伊氏の彦根城などと比較し、松江城を位置づける。

出雲国に松江城のみが存在する体制は、江戸幕府が布いた一国一城令にしたがい成立した。それまで、かつての拠点である月山富田城は機能をたもち、「支城」として存続した。堀尾氏は月山富田城の他にも国境の警備や領国支配の拠点として、赤穴瀬戸山城、亀嵩城、三刀屋城を置き、本城・支城体制を維持した。関ヶ原合戦の後、緊張状態にあった慶長期は、戦争の危機が継続した時代であり、出雲国内には軍事拠点として複数の城があった。

本展では、松江城築城という堀尾氏の大事業をとおして、慶長時代の出雲国の情勢に目を向けた。

1 会期・開館時間

令和7年(2025)10月10日(金)～12月7日(日)

休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌平日)

開館日数：51日(会期日数：59日)

開館時間：9時00分～17時00分(観覧受付は16時30分まで)

2 会場

松江歴史館 企画展示室(〒690-0887 島根県松江市殿町279番地)

3 主催

松江歴史館

4 観覧料

大人750円(600円)、松江市民380円

小・中学生380円(300円)、松江市民190円

※()内は20名以上の団体料金

※高校・大学・専門学校に通う学生は学生証の提示で団体料金

※基本展示とのセット券の料金は大人1100円(880円)、小・中学生560円(450円)

※市民割引には運転免許証・マイナンバーカードなど現住所が確認できるものの提示が必要

5 主な展示資料

松江城天守祈禱札(館蔵、国宝附)ほか

6 図録

400部製作予定(販売分を除く)

7 イベント(予定)

- ・記念講演会
- ・家族で松江城ツアー
- ・国際交流員写真展
- ・路上詩人こーた 御城印展
- ・水燈路ナイトミュージアム(展示室の夜間無料開放)
- ・ギャラリートーク

8 担当者

松江歴史館 副主任学芸員 笠井今日子

〒690-0887 島根県松江市殿町 279 番地

電話（直通）0852-55-5511

電子メール rekishi@city.matsue.lg.jp